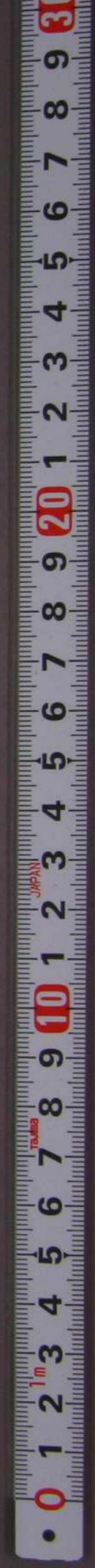


414
A1413



歳入増加セサル可ラサルノ論
 國ノ歳入歳出タルヤ猶ホ一家ノ歳入歳出ニ於
 ルカ如シ乃チ歳入出夥多ノ邦國ハ富豪ナル人民ノ如
 キナリ今姑
 ク歳入出僅少ノ邦國ハ貧弱ナル人民ノ如キナリ今姑
 ラク人民上ニ就キ貧富ノ大ニ庭運スル所ヲ論セハ富
 豪ノ人民ハ裕カニ子弟ヲ教育シ衆多ノ人員ヲ使役シ
 テ家業ヲ盛大ニ倍々其繁栄ヲ謀リ且堅實ナル家産
 器械ヲ建築整備シ以テ他ノ兇暴ヲ虞禦シ其名聲ハ郷
 黨隣里ニ聞ヘ其言論モ亦郷黨隣里ニ行ハルニ是リ
 以テ他人ニ畏敬セラル、ト少ナカラス故ニ不逞ノ徒
 アリト雖モ復々其術ヲ施スニ由シ無シ之ニ反シテ貧
 弱ノ人民ハ子弟ヲ教育セシカ為メ良師ヲ聘邀スルヲ

天正十一年四月
 侯爵部
 贈



得サルミナラズ或ハ將サニ就學ヲモ得ヘカラサラ
シトス況ニヤ堅實ナル家屋器械ヲ建設スルニ於テヤ
ヤ其極タル他人ニ擯斥セラレ動モスレハ獨文自主ノ
民タルヲ得スレテ諸人ノ為ニ驅役セラレ終ニ奴隸
視セララルニ至ルモノ比々焉レ有リ今ヤ貧弱ニシテ
其屈辱ヲ受ルトヲ患フルモノハ猶ホ卑キニ居テ濕
ルヲ惡ムカ如シ苟シクモ之ヲ患ハ一家協力奮勵シ
テ家産ヲ振起シ歳入ヲ増殖シ以テ富豪獨立ノ域ニ進
ムヲ期セズンハアル可ラス夫ノ歳入増殖ノ事ニ後ハ
スレテ幣ニ節儉省畧ニノミ苟從タル如キハ蓋シ一家
ニ取テ策ノ得タルモノト云可ラサルナリ其然リ邦
國ノ貧富ニ於ルモ亦猶ホ斯ノ如クナラサルヲ得テ竊
カニ方今我カ國ノ形勢ヲ按スルニ歳入僅少ニシテ國

家ヲ經營スルニ充足ナラス是ニ於テ官省府縣ノ定額
常費ヲ減殺シ行政軍備ノ事業ヲ進歩セシメサルノ景
況アリ其勢ニ隨テ經費ヲ減殺スルモ隨テ歳入ノ缺乏
ヲ生スルニ至ルモ計ルヘカラス此レ即チ所謂貧弱ナ
ル人民ト一般ニシテ協力奮勵シテ歳入ヲ増殖シ國家
ヲ經營セサル可ラサルノ秋ナリ斯ノ如キ地位ニ陷リ
誰カ恬然日ヲ曠レフスルノ理アラシ哉請フ其大要ヲ
左ニ論ヤシ
日本國民ヲシテ文明國人ニ對抗スルノ地位ニ班マシ
メント欲セハ政府ノ歳入中ヨリ大ニ學資補助金ヲ出
シ以テ文運ヲ獎進セシメサル可ラス夫英國ノ如キ
ハ所謂自由ノ國ニシテ人民ノ學業ニ就クト就カサル
トハ一々各自ノ思慮ニ任セタリ然レニ諛政府ハ一般

教育ノ為ノ其歳入中ヨリ我カ文部省ノ委托金ニ類ス
ルモノヲ出ス所ノ金額ハ毎歳大凡七百五十万封度即
チ三千七百五十万圓許ナリ其他ノ國法ヲ設テ學事ヲ
獎勵スル各國ノ如キハ政府ヨリ出ス所ノ金額鮮少ナ
ラサルヲ推知スヘシ是ニ由テ之ヲ視レハ文明國ト雖
モ教育ノ事業ヲ以テ全ク人民社會ニ委托ヤスレテ其
政府ノ歳入中ヨリ幾何ノ金額ヲ出シ以テ之ヲ補助セ
サル可ラサルヲ證スルニ足レリ
日本國ヲシテ歐米各強大國ヲ蔑視スル所ト為ラサラ
シムルノ地位ヲ占メ我カ 天皇陛下ノ威權ヲ以テ歐
米各國ノ帝王ニ向テ對等論說スルヲ得ント欲セハ歳
入ヲ増加シ大ニ兵力ヲ揮擢シ器械ヲ整備スルニ非カ
レハ安ソ其成果ヲ見ルヲ得ンヤ今其一例ヲ舉ンニ數

年来カヲ條約改正ニ用フルモ未タ其成功ヲ見サルカ
如キ之ヲ直言スルハ我カ 天皇陛下ノ條理アレ議
論ヲシテ歐米各國帝王ノ論辯ノ為メニ攪破セラルハ
ト云モ蓋シ誣妄ナラサルヘシ嗟乎率土臣民ノ一大恥
辱タラサルヲ得ンヤ夫ノ普國ノ兵力ノ如キハ幾ント
全歐洲中ニ冠絶スルモノナリ然ルニ該國陸軍大將「モ
ロトケ」氏ハ曩ニ佛國ト戰ヒ捷ヲ得ルノ後即チ一千八
百七十四年ニ於テ宰相及ヒ上下議員ヲ會同シ切論シ
テ曰ク陸軍ノ定額ヲ増加シ士官ヲ訓練シ大ニ兵備ヲ
為スニ非サレハ獨逸國ノ平和ヲ保シ難シ且獨逸皇帝
ノ言論ヲ以テ全歐洲ノ平穩ヲ謀ルノ地ニ達セサル可
ラス是故ニ國民ニ於テ亦其財產ノ一少部分ヲ出ス
テヲ吝ム勿ク若シ之ヲ吝ムハ獨逸國民ニ於テモ或

ハ此田所國ノ敵兵ノ為ニ蹂躪糜亂セラレ而モ且幾
億千万ノ償金ヲ出セルカ如キ慘狀ヲ演出スヘシト是
レ誠ニ國家柱石ノ大任ヲ負擔スルモノ、確論ナリ
日本國ノ産業ヲ繁殖シ人民ノ富實ヲ致サント欲セハ
航商ヲ保護シ貿易ノ大利ヲ興起シ或ハ内外海陸ノ運
輸ヲ開通スル等ニ就キ政府歳入中ヨリ其幾部分ヲ以
テ以テ之ヲ誘掖スルニ非サレハ其奏効ヲ期スヘカラ
サルナリ英佛各國ノ如キハ堂々タル一大主省ヲ設ケ
閩國經濟ノ事務ヲ管督スルハ蓋シ世ノ普子ク知ル所
ト為ス又歳入ノ餘裕ヲ以テ毎歳少クモ一百万圓ニ下
ラサル紙幣ヲ償却スル予或ハ同額ノ本位金償却ヲ以テ
不動準備ニ送入増殖スルノ豫算及ヒ結算ヲ廣告スル
ニ非サレハ何ヲ以テ予紙幣ノ價値信憑ヲ維持シ全國

ノ人民ヲシテ會計失敗ノ地ニ陥ラシメサルヲ保シ難
カルヘシ
以上ノ件々ニ就キ退テ之ヲ熟按スルニ方今我々國ノ
形勢實ニ万止ムヘカラサルノ秋ナリ然ルニ歳入ノ欠
乏ヲ告ルカ為メ帝ニ定額ヲ減殺シ事業ヲ廢停シ以テ
節儉ニシテ從事セハ規模狹隘人心退墮シテ竟ニ皇
威活潑ノ氣ヲ失フノ地ニ至ランコトヲ恐ル、ナリ今夫
レ我カ日本國ヲ以テ歐洲各強國ニ比セシカ乃チ土地
ノ廣キ人民ノ多キハ英佛普等ノ各國ニ伯仲セリ何ソ
自ラ弱小視ニ以テ雌伏スルノ理アラシヤ果シテ然ラ
ハ則チ政府ハ更ニ規模ヲ擴張シ人民ヲ教育シテ文運
ヲ獎進セシメ兵カヲ養成シテ各國ノ顔顔スル地ニ
至ラシメ國產ヲ繁殖シ貿易ノ利ヲ興シテ國家ノ富實

ヲ謀ル事ノ專ニ 罷免着手セサル可ラス苟クモ之ニ着
手セント要セハ 即チ歳入ヲ増加セサル可ラス歳入ヲ
増加セント欲マハ 別ニ一良法ヲ設ケル可ラス然
リト雖モ 新税法ヲ施行スルハ 容易ノ事業ニ非ス苟チ
酒税ヲ増課セシカ 飲税ハ 近今間税中ノ 第一等ニ位シ
甚タ 輕税ヲラサルカ 故ニ 釀造高ハ 毎年遞減スルノ情
勢アリ 烟草税ヲ 増課セシカ 飲税ハ 設置已来其法スラ
未タ 甚タ行ハレサル 景況アリ 舟車税ヲ 増課セシカ 其
額僅少ニシテ 其利其害ヲ 償フニ 足ラサルヘシ 各種ノ
營業鑑札税ヲ 新設センカ 從來ノ 實驗ヲ 見ルニ 其收額
多キモ 五六万圓ニ 上ラス少ナキハ 壹貳千圓ニ 止リ列
底歳入ヲ 増加スルノ 資用ニ 供スルニ 足ラス 砂糖税ヲ
新設セシカ 其輸入額 凡三 百貳三 拾万圓 前後ニシテ

之ニ加フルニ 内國産ヲ 以テスルモ 恐クハ 四百萬圓余
ニ上ラサルヘシ 試ミニ 酒税ノ 法ニ 據リ一割ノ 税ヲ課
シ其法善ク 行ハルト 為スモ 其收額ハ 四拾万圓許ニ
止ルヘシ 況ニヤ 厚税ヲ 賦スルキハ 其量數ノ 減スルハ
自然ノ 理ニシテ 殊ニ 酒税ニ 法トリ之ヲ 課スルハ 其理
穩當ナラサルカ 如キニ 於テ オヤ 果シテ 此ノ 如キハ 何
等ノ 間税ヲ 設ケ又 幾多ノ 營業鑑札税ヲ 施スモ 徒ラニ
各種ノ 物價ヲ 沸騰セシメ 而シテ 僅々タル 歳入ヲ 増加
スルハ 其結局 國家ノ 鴻益ニ 非サルベシ 然ラハ 則チ 何
ヲ以テ 良法ト 為ス乎 曰ク 生カ 論スル所ノ モノハ 右等
ノ 如キ 間税ニ 非スシテ 直税 即チ 財産税ニ 於テ 今我カ
全國ノ 戶數ヲ 算スルニ 六九 六 百 五 拾 万 あり 毎 戸ニ 就
キ 各 其 財 産ノ 多寡ニ 應ジ 其 一 細 少 部 分ヲ 課 出セシム

ルノ法ヲ依テ茲ニ其大體ヲ論ヤ夫レ壹万金已上ノ邸館ヲ有之ニ適スル器具ヲ備設スル貴族高僧富商豪農ノ如キハ假令ハ百分一即チ百圓ノ直税ヲ課出セシムヘシ然リ而シテ耕地ノ券狀公債證書株金證書及ヒ船車機械等ノ商估ノ肆品等ノ如キハ固ヨリ之ヲ算入セズ專ラ其邸館器具ニ就テ其財産ノ多寡ヲ算定スヘシ已下毎千圓毎百圓ノ各々之ヲ遞減課出セシムヘシ然ラハ則チ百圓ノ財産ヲ所有スル一家ニ壹圓ヲ課出セシムルノ理ニシテ毫々人民ヲ戕害スルノ法ニ非サルナリ何トナレハ殷富ナル者ハ多額ノ税ヲ出シ殷富ナラサル者ハ少額ノ税ヲ出シ赤貧ナル者ノ之ニ関涉セサルヲ以テナリ今單ニ之ヲ畧言スレハ天下ノ毎戸ニ就キ各其家産ノ多寡ニ應ジテ幕金スルニ異ナ

ラ○ス○即チ「ミル」氏ノ所訂祖税ハ幕金十〇リトシテ意ハ如シ今ヤ該税法ヲ決行スルヲ得ハ假令ハ毎戸ニ就キ其平均額壹圓ニ滿タサルモ猶ト七百圓許ヲ徵收スルヲ得ヘシ然リ而シテ其財産ヲ検査勘定スルノ方法規則ノ如キハ固ヨリ一言片紙ノ能ク盡ス所ニ非スト雖モ之ヲ要スルニ實地賣買本價ノ三割又ハ二割半ヲ減シテ其税額ヲ査定スルニ非サレハ不可ナルモノノ如シ假設ハ茲ニ千圓ノ實價ヲ有スル邸宅ニ居住スルモノノアノシ之ニ課スルニ拾圓ノ直税ヲ以テスルルハ則チ一割ノ利子ト看做スモ百圓ノ價ヲ減シテ其邸宅ハ九百圓ノ賣買價トナルモ計ルハカノス又已ニ幾分ノ宅地税ヲ拂フニ於テヤ故ニ之カ價格ヲハ百圓或ハ七百五十圓ニ減減シ以テ其税額ヲ算定スル

ノ可トス果シテ生カ記憶スル所ヲシテ誤謬ナカラシ
 ハル中ハ米合衆國ノ國稅州稅等ヲ課スルカ爲メ各自
 ノ家屋器具家財等ノ實價二十四分ノ六ヲ減シ其餘ノ
 十ハヲ以テ稅額ヲ課スルノ本價ト爲スト聞ケリ其由
 テ來ル所ノ旨意ハ之ヲ知ラスト雖モ蓋シ納稅者ノ意
 中ヲ酌量シテ聚斂苛酷ニ涉ラス能ク人情ニ悖戾ヤ
 ルノ致ス所ナラン是ヲ以テ假令ハ二千四百圓ノ家產
 ヲ所有スルニ納稅上ノ價格ハ千八百圓ノ割合ナリ
 人或ハ曰ハシ全國ノ人民重キハ農ニ居リ地租ノ金納
 ニ苦シミ從來ノ田租スラ猶ホ之ヲ清完スルヲ得ス況
 ニヤ今又家產稅ナル直稅ヲ加フルニ於テオク其言
 タル頗ル理アレカ如シト雖茲ニ地租ノ豫算ニ就キ述
 今ノ統計ヲ舉ケ以テ生カ說ノ誤謬ヲ示ラサルヲ辨明ス

地租ノ豫算額

口米合米其外
 課賦金共

明治七年中	四六、九九六、八八
全 八年度	五、五〇五、九六
全 九年度	四六、五五六、七四三
全 十年度	三九、五三八、七九四

右ノ統計ニ之ヲ觀レハ十年度ニ於テ非常ノ減少ヲ為
 ヤリ此レ即チ本年一月四日ノ聖詔人民休養ノ 敷慮
 ニ出ル所ノ成ホナリ然リ而シテ本年度ノ豫算額ヲ以
 テ七年ニ比セハ七百四拾五萬貳千圓余ヲ減シ八年度
 ニ比セハ壹千壹百九拾六萬七千圓余ヲ減シ九年度ニ
 比セハ七百壹萬七千圓余ヲ減ス乃チ其平均ハ八百
 八拾壹萬貳千圓余ナリ故ニ田畑ヲ耕耘スル人民ハ此

圓位

如キ巨額ノ租税ヲ減納スルハ計美ニシテ之ヲ全國ノ農家大凡三百五十戸ニ平均スレバ毎戸貳圓五拾錢已上ヲ拂ハサルノ理ナリ是ニ由テ之ヲ視レハ平均減額八百八拾萬圓以上ハ旧來偏重ナル租税中ヨリ農民ニ免除シ此に於テ全國ノ四民ニ課スルニ大凡七百萬圓ヲ以テセハ却テ政府ノ人民ニ課賦スル租税ノ實理ニ歸著スルト云フヘリシテ誰カ其不可ヲ鳴ラスモノアラシヤ

今ヤ果シテ斯ノ如キノ税法ヲ施行セハ少ナクモ七百萬圓許ハ之ヲ徵收スルヲ得レシ乃チ前條ニ於テ縷々論述スル所ノ文明進ムヘシ兵力養フヘシ産業進スヘシ運輸開クヘシ紙幣償却スヘシ據テ以テ大ニ國家ヲ經營シ更ニ政府ノ規模ヲ擴張シテ庶幾ラン乎